

令和 6 年度第 2 回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 令和 6 年 11 月 22 日（金）19：00～19：50

◆会場 伊勢市役所東館 5 階 5-3・5-4 会議室

◆出席委員

世古口 明人委員、福村 伝史委員、中村 基記委員、横田 由美委員、齋藤 平委員、江崎 徹議員、北出 学委員、北村 和也委員、鈴村 亜希子委員、秋山 則子委員

◆欠席委員

松月 菜生委員、林 雅哉委員、山川 一子委員、安藤 大作委員

◆出席職員

情報戦略局【企画調整課長、同副参事、同主事 2 名、デジタル政策課長】

環境生活部【市民交流課長】

教育委員会【学校教育課長、教育研究所長】

健康福祉部【参事兼福祉総合支援センター長、福祉総合支援センター副参事、健康課長、保育課長、子育て応援課長、高齢・障がい福祉課長、こども発達支援室長】

産業観光部【参事兼商工労政課長、同課副参事、参事兼農林水産課長、同課副参事、観光振興課長】

都市整備部【参事兼都市計画課長、交通政策課長】

◆傍聴者 なし

◆結果概要

（１） 諮問

（２） 第 2 期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂案について

・各委員からの意見等及び市の回答は次のとおり。

目標値再設定一覧について

- ・空家バンクの成約件数について、大幅な上方修正となっているが実績に基づいているのか。
⇒計画策定時は空家の利活用の取り組みが始まろうとしていたところであったが、現在では不動産関係業者等の協力もいただきながら取り組みが進んだことによって、実績が上がってきており、今後もしっかりとやっていこうということで、実績見合いで大幅な上方修正となっています。
- ・空家バンクの成約者は、U ターンの方なのか、I ターン・J ターンの方なのか。
⇒空家バンクの成約者について、U・I・J ターンの内訳は把握しておりませんので、ご理解をお願いします。
- ・空家バンクの成約件数は大幅な上方修正だが、市の実施する移住イベント等への参加者数は下方修正となっている。関係性のあるものではないのか。
⇒移住イベント等への参加者数は累計値で、コロナ禍の期間は実施できなかったため減少となっており、空家バンクの成約数と連動するものではありません。
- ・市内製造業者従事者数（4 人以上事業所）は上方修正となっているが、製造業者が増えているということか。また、どういう業種が増えたのか教えて欲しい。
⇒コロナ禍が明けて、市内企業の事業拡大や製造部門の拡大によって従事者数が増えていると理解

しています。また、業種としては、製造にかかる業種としてまとめさせていただいているところ
です。

- ・人口減少や物価高の中で、少ない人の中でどうやって工夫して事業を継続するかといったことに企業が取り組んでいると聞いているが、従事者数は増やしていこうという方向性なのか。

⇒事業所に製造ラインの増設等にあたり奨励金を用意しているが、同時に、雇用に対しても奨励金を用意しており、人材の確保についても努力いただいています。現状、従事者数が増えてきており、目標値を上方修正としています。

- ・学習環境の整備・充実の新たな指標について、授業でタブレット端末を使う教員の割合となっているが、タブレットが効果的な場面とそうでない場面があると思う。先生たちも大変だと思うが、使う場面を考えたり、クリエイティブな使い方ができるようになるとより効果的だと思うので、ぜひお願いしたいと思う。

⇒タブレットについては、急激に環境が整備された中で、活用にあたっては、タブレットありきではなく、効果的な活用を研究しながら進めているところです。現在も、授業中、ずっとタブレットを活用しているわけではなく、タブレットを活用することが有効な場面において活用しているが、今後も研究しながら進めていきたいと考えています。

- ・市内製造業者従事者数について、増やすのであれば工場の新設できるような環境を準備することも同時に進める必要があると思うが、市内にはそういった場所がないという話をよく聞く。その辺りの方向性について、考え方を教えて欲しい。

⇒平地で一定規模を有した土地がないのが現状です。他の用途で使っている土地の開発も視野に入れながら、働く場の確保ということで進めていきたいと考えています。

デジタル技術を活用した具体的取組の追加一覧について

- ・デジタル人材育成の支援とデジタル分野の資格取得支援は、どう違うのか。

⇒デジタル人材育成の支援は、生成 AI の活用等のセミナーの開催をしています。デジタル分野の資格取得支援は、デジタル人材育成の入り口として、国家資格の IT パスポートの取得支援をしています。

- ・地域活動デジタル化の支援は、自治会業務への支援ということでもいいのか。地域活動をデジタル化すると疎遠になっていくように感じる。

⇒自治会業務の効率化・負担軽減、自治会への若い世代の参加促進のために支援しており、具体的にはアドバイザーの派遣やデジタル機器の購入支援といったものです。地域のつながりは大切であり、各地域においても、デジタル化すること・しないことを考えていただきながら、取組を進めていただいています。

その他意見

- ・コロナも収束して観光客も戻りつつある中で、目標値も上方修正され、直近の実績値からみても妥当であると思っている。今後、総合計画に統合していく中で、観光戦略をどのように考えていくかが非常に大事だと思っているので、関係団体が連携・協力して行く必要がある。

- ・ハローワークとして、就労支援の推進のところで協力していくことになる。目標値は下方修正となっているが、多様な働き方（特に短時間就労）や移住に関しても働く場が必要かと思うので、そういった点でも連携できればと思う。

- ・地元企業から、高校生に対して事業説明の機会を設けて欲しいと要望をもらっているが、高校生の進路として圧倒的に進学が多いのが現状である。そのため、大学卒業後に戻って来てもらうための取り組みが必要だと感じており、高校在学中にいかに地元企業の魅力や可能性を伝えられるかということを考えていく必要がある。加えて、市外から来ている学生の割合も増加傾向にあり、伊勢市の企業のみをPRしていくのも難しいのかなとも思っている。
- ・小さい企業であればあるほど、新規採用が厳しい状況にあるため、伊勢市には、ぜひ若い人たちが働きやすい環境づくりをお願いしたい。現状を分析して、多くの目標がある中で、重要性をしっかりとすみ分けして取り組みを進めてもらえたらと思う。

(3) その他

- ・意見を踏まえて事務局が取りまとめた改訂案を会長が確認し、答申とすることについて各委員に了承を得る。
- ・今後のスケジュールは、令和7年2月に市議会に改訂案をお示しし、3月に改訂を予定している。